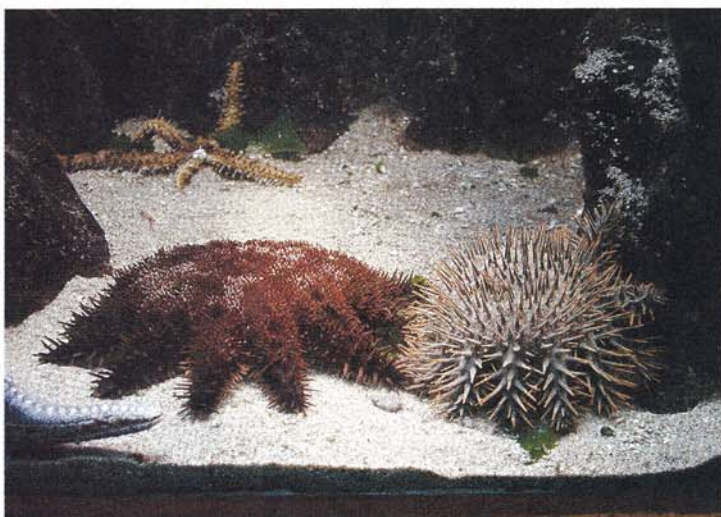


オニヒトデ



水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

深見 裕伸

あまり分かっていないがサンゴを食べないと言われている。白浜水族館ではこの両種を展示している。

さんご礁だった所が本当に何もなくなっていて大きな衝撃を受けた。

近年、このオニヒトデが串本町とその周辺で大発生。ボランテアアのダイバーたちの駆除活動によってなんとかサンゴは守られているものの、多

いときには日に500匹ものオニヒトデを駆除したことがあるそうだ。

オニヒトデは厄介なことに猛毒のとげを持つ。生命力も非常に強く、体を割ったぐらいでは死なずに再生してしまふ。さらにこれを餌とする動物がほとんどいないため、一度増えると、駆除する

か、サンゴがなくなるかのどちらかになる。

オニヒトデはもとも熱帯から亜熱帯のさんご礁で生息しており、和歌山県のような温帯域では冬季の寒さですべて死滅してしまふと考えられていた。しかし、最近温

厄介者はサンゴが好物

ヒトデの一種であるオニヒトデが最近よくニュースに登場する。その最たる理由はサンゴを食べべ

るからだ。少数ならいいが、時に大発生してさんご礁のサンゴを食べ尽くすから問題になる。沖縄で現場を実際に見たが、

△ サンゴを食べるオニヒトデ(右)と、アカオニヒトデ
— 水槽番号215

これも近年の海水温上昇の影響と思われる。

オニヒトデの仲間にはアカオニヒトデという種類もある。オニヒトデより背中側のとげが鋭くなく、体全体が赤みを帯びている。生態については

これは突き詰めれば人間が行った自然破壊の影響によるものとも言える。オニヒトデという生物を見ることで、地球環境という大きな問題を考える切っ掛けにしてほしい。(京都大学助教)